

みつくら

令和 7年 8月15日 第440号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

八区農家組合で「家庭ゴミの仕分け」研修会

第八区農家組合（板垣正博組合長）は7月5日に大瀬川振興センターで30名が出席し、家庭ごみの仕分け研修会を開催した。（有）丸石産業に勤務する菅原昇さんを講師に、自らが体験したゴミの仕分けに関する講演であった。
 菅原さんはまず、ゴミ収集者の立場で困っている事柄から話し始め「不燃ゴミの中に、適正に処理されていないスプレー缶やカセットボンベ、リチウムイオン電池、ライターなどが混入していたことから、収集車やゴミ処理場内で火災の原因にもなっている。当社でも実際に収集車から出火した経験があった」と話し、「卓上ガスボンベやスプレー缶は、必ず中身を使い切ってから缶に穴を3ヶ所開けて出すこと。中身の残っているスプレー缶は回収できない」「リチウムイオン電池やモバイルバッテリーなどは収集の対象外なので出さないこと。これらはホームセンターや家電量販店の回収ボックスに入れるか不用品専門回収業者に回収してもらおうこと」などと話した。このほかに「仕分けが不完全なため、ゴミをその場に残さざるを得ないなど、苦労もある」とも語った。
 特に身近な話題とあって、この研修会では8名から質問があり関心の深さが知れた。研修の帰りには、燃えるゴミ袋と燃えないゴミ袋それぞれ20枚が配布された。

たんぼぼの会 いきいき講座を開く

たんぼぼの会（菅原文子代表）では、7月16日に花巻市長寿福祉課から2名を講師に招き、介護予防事業の「いきいき講座」を九区自治公民館で行った。今回はたんぼぼの会会員のほか男性にも声がけをし、参加者17名中男性は5名参加した。はじめに栄養士の堀内さんが「物忘れ」と「認知症」の違いについて話され、老化防止のポイントとして「同じ時間での食事」「家族との食事」「同じメニューにならない」「肉・お菓子・白い穀物の量」「よく噛んで」「身体を動かす」をモットーにしながら、一日の食事には「さかな」「あぶら」「にく」「ぎゅうにゅう」「やさい」「かいそう」「いも」「たまご」「だいたい」「くだもの」の頭文字を

取って「『さあ、にぎやかにいただく』を思い出しながら食べて健康寿命を延ばして下さい」と呼び掛けた。

続いて、晴山さんからは家庭にあるカレンダーを丸めて棒にして簡単にできる、棒体操5パターンを全員で試した。ちょっとした運動だったが、背筋や筋肉が柔らかくなる感じがした。また、こむら返り（足がつる）の予防には、寝る前に水を飲むことや、足を伸ばしながら意識的にかかとを3・4回直角にするとふくらはぎが柔らかくなることも教わった。

この「いきいき講座」は、年2回を予定しており、次回は来年となるが男女問わずに多くの参加を期待したい。

菅原洋美さんが映画「侍タイムスリッパー」に出演

7月18日の夜にテレビ岩手でも放映された映画「侍タイムスリッパー」に大瀬川出身の俳優、菅原洋美さん（旦乃花家）が出演した。ちなみにこの映画は第48回日本アカデミー賞の最優秀賞を受賞した。

ストーリーは「時は幕末、京の夜。会津藩士・高坂新左衛門は、密命のターゲットである長州藩士と刃を交えた刹那、落雷により気を失う。眼を覚ますと、そこは現代の時代劇撮影所。行く先々で騒ぎを起こしながら、江戸幕府が140年前に滅んだと知り愕然となる新左衛門。一度は死を覚悟したものの、やがて「我が身を立てられるのはこれのみ」と、磨き上げた剣の腕だけを頼りに撮影所の門を叩く。「斬られ役」として生きていくための修行」とある。

映画の主人公は高坂新左衛門（俳優山口馬木也）であるが、菅原洋美さんは主人公とともに「斬られ役」の一人として出演した。菅原さんは菅原洋二さんの長男で京都市右京区に在住し、現在東映京都撮影所に所属し、これまで主な映画出演は「小吉の女房」「水戸黄門」「柳生一族の陰謀」「大江戸ものけ物語」「暴れん坊将軍」などがある。

恒久電気柵設置の講習会が行われる

イノシシが畦畔を壊す被害が続いている。年々その範囲も拡大し、10頭ほどの群れに出くわすことも増えた。車のヘッドライトにも動じず道を横切り田んぼの中に入るのを何度も目撃している。8月1日には大瀬川橋付近に菅原教雄さんが設置していた「くくり罠」で70Kg超えの雄のイノシシが捕獲された。個々に対策は取りつつも追いついていない現状がある。

一方、7月25日に富沢橋から大瀬川橋に向け葛丸川左岸約170メートルに恒久電気柵が設置された。これは、岩手県農林水産部農業振興課による「ツキノワグマ等侵入防止を目的とした恒久電気柵講習会（設置実習の部）」として行われたもの。この講習会は、下大瀬川美土里の会（熊谷俊彦代表）が令和6年から花巻市農村林務課に電気柵設置について相談してきたことから実施につながったもので、下大瀬川美土里の会からは19名が参加、他に一関市・北上市・盛岡市・西和賀町からも23名が参加した。

また、講習会は、県農業普及技術課の中森農業新支援担当課

長が中心となって行われ、参加者は恒久電気柵（岩手県オリジナル）の有効性や耐久性、また使用材料と施行の仕方を学ぶとともに、電気柵の支持杭打ちや電線の張り方、張力の加え方さらには野生動物が侵入しやすい場所には支持杭を追加して打つなど実際に電気柵設置について体験学習した。その後通電し、電気柵の点検方法や冬期間の電気柵の保守についても学んだ。電気柵設置後は、岩手県花巻農林振興センターがトライアルカメラ（野生動物監視）を設置し、定期的にクマ等の生態を観察することとされている。今回の電気柵は富沢橋と大瀬川橋の間1,000メートルの内の170メートルであることから今後、下大瀬川美土里の会を始めとする地元の関係機関において電気柵設置延長の検討が求められている。

下大瀬川美土里の会代表の熊谷俊彦さんは、「2年前、地域の方がクマに襲われ大けがを負ったし、イノシシによる農業被害はますます深刻になっている。電気柵設置は地域の安全・安心と農業被害防止の上から必要。今後電気柵を延伸するとともに、今回設置した電気柵の下草を刈り、電気柵の効果を維持する活動を行っていく。」と語っている。

山王海ダムの貯水量減による番水が行われる

山王海土地改良区は7月29日付けの文書で組員に対し8月2日から幹線水路の番水を行う旨通知した。6月以降の高温・小雨によりダムの貯水量が少なくなったことによるもので、28日開催された水利調整組合長会議において了承された。

当地区では、南幹線水路、石仏幹線水路と葛丸幹線水路が対象範囲となり、48時間ずつ交互に配水され9月1日まで予定されている。番水は約50年前にもあったが、山王海ダムの嵩上げや葛丸ダムとの親子ダムになってからは無かったと思う。昨年は7月に7日間ダムの放流停止があり、異常気象が続けば今後も可能性としてあり得る。今は稲に花水が欲しい時期となっている。近年、多面的機能支払交付金活動団体の事業により多くの用水路がU字溝に入れ替わって、土側溝の頃よりは水の走りがよくなっているが、いかんせん天からの降水が無ければどうにもならない。県内でも御所ダム・豊沢ダム・湯田ダム等でも濁水の報道がされ、今年はやっと米の価格上がると希望がある中で減収穫にならなければ良いかと不安を感じずにはいられない。そう言えば、宮澤賢治は、「ヒドリ（ヒズリ）ノトキハナミダヲナガシ」と詠んだが、ひび割れた田んぼの土を見る時ナミダが出そうになる。この号を読者が目にする頃、水不足が解消していることを願うばかりである。

人事

山祇神社総代

総代長 畠山義弘（新）

副総代長 熊谷静治（新）菅原新一郎（再）

みつくら

令和 7年 8月15日 第440号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

親子環境学習が開催される

7月26日に葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長)は50名が参加して親子環境学習を構造改善センターで行った。板垣会長は「子供さん達は今日から夏休みの入ったと思いますが、この学習で水の大切さを学習して自由研究にでも役立ててください」と挨拶した。共催でもある大瀬川子供育成会の板垣徹会長と石小PTA稲豊会の阿邊奈々さんも挨拶した。例年なら次に環境講話を行っていたが、この日は午前中から気温が高く、放流するイワナの入れ物の水温が上がるため日程を変更し北寺堰に移動して放流をした。イワナの中には弱って腹を上になっているものもいたが堰に入ると元気に泳いでいた。改善センターに戻り7月初めにエアコンが取付られた涼しい部屋で環境講話を行った。岩手県環境アドバイザーの佐井守先生から「山と川と生き物」と題して身近な水生生物の講話を聞いた。先生によるとこの辺は葛丸川の中流に位置して沢山の生き物が住んでおり豊かな地域だそうだ。先生は沢山の標本も持って来ており皆は興味津々に質問していた。講話の後は食育講座として前日から準備していた地元の野菜たっぷりのカレーを食べ食物の大切さを学んだ。

葛丸の農村環境を守る会が草刈り完了

2ヶ月間にわたって実施していた葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長、構成員230世帯)主催の畦畔一斉草刈りと大排一斉草刈りが7月31日に完了した。この内の畦畔一斉草刈り(対象面積351町歩)は6月1日から7月31日まで61日間に延べ1229名が出役した。これは昨年比139名増であるが、連日の猛暑によって半日作業の人数が多かったのが要因。出役者には1日当たり草刈り機や燃料代も含め10,800円が支払われる。ただし、限度額は自作地10a当たり3,240円。
 一方、大排一斉草刈りは7月1日から7月31日まで行われ、延べ出役者は82人で計画より38名少なかった。これは、出役者の高齢化によるもので、前年は毎日4〜5人であったものが2〜4人と激減したためである。それにより、雑木が多い箇所から順に作業をしたために計画の35%が刈り

残しとなった。

岩手日報公募書展に熊谷静香さんが最優秀賞

8月1日の岩手日報に、同社主催の「2025年公募書展」の記事が掲載されており、漢字部門の優秀賞に熊谷静香さんが入賞であった。この公募書展には「漢字・かな・漢字かな交じり書(近代詩)・篆刻、刻字」の4部門があり、今年で47回目で、書道界の振興と新人書家の発掘をねらいとして行われている。岩手県民会館で入選した117選を8月4日まで展示された中、静香さんの作品は講評で「線の動きがおおらかで大胆。2行が互いに呼応し合うように流れ、空間にも効果的に作用している」との評であった。新聞での文字がわからなかったので静香さんにお聞きしたところ「高樹有風聞夜磐。遠山無月見秋燈」(こうじゆかぜありやけいをさき。えんざんつきなくしゆうとうをみる)と教えられた。

7区自主防災会でAEDの講習会

8月2日に7区自主防災会(菅原敏幸会長)では、午後3時より花巻北消防署職員2名(及川・高橋)によるAEDの講習会を、参加者16名で2班に分かれて実施した。8年ぶりのAEDの講習会であり再確認することや新たに学んだことがあり有意義な講習会となった。

7区自治公民館 賑わう♪

8月2日、7区自治公民館では午後5時より『ふれあい広場に集まろう』を開催し、子供から高齢者まで34名が参加した。7区自治公民館の菅原清孝館長の挨拶・乾杯で始まり、ビアガーデン・お楽しみ抽選会・花火大会を行い楽しい時間を過ごした。同日に行った自主防災会活動で作った、アルファ米を使用した「わかめおにぎり」も提供され、けっこう美味しいと好評だった。

好友会 焼き肉交流会を開く

8月2日の夕方から九区の好友会(藤原美輝会長)は、会の親睦を深める事業として九区自治公民館の外で焼き肉大会を開催した。午後から雷が鳴って雨が降ったが、始まる頃には止み、外での開催ができた。今回の参加者は9名と少なく、生ビールが余るのではと心配していたが、石名田親類の会合後公民館にバスで戻って来た4名も加わって楽しく過ごした。最後に「今回は、忘年会を予定しているので、多くの参加をお願いしたい」と藤原会長の締めで解散となった。

「地域に貢献した今坂家」企画展を開催中

大瀬川歴史クラブ主催の「地域に貢献した今坂家」企画展を大瀬川振興センターで開催している。期間は8月10日から8月31日まで。今坂家は明治42年に長作家から板垣長五郎(以下故人は敬称略)が分家し、板垣正子さんは3代目。初代の板垣長五郎と2代目の板垣幸道は共に石鳥谷町助役を担い、また板垣幸道の妻である板垣エナは大瀬川小学校の教員の

傍ら、石鳥谷町内婦人運動の先駆者であった。この企画展には今坂家に保管されている貴重な関係資料を展示し、往時の時代背景と、今坂家三人の功績を目にさせていただくことが目的である。会議や集会の折に目を通していただきたい。

ソフトボール大会 大瀬川チーム敗退

ふれあい運動公園で8月3日、石鳥谷町体育協会主催の第31回石鳥谷ソフトボール大会が開催され、女性1名以上の参加・出場選手の合計年齢が350歳以上等のルールのもと5チームが参加した。
 2試合とも猛暑(花巻36.2°)と二日酔い・故障者で、残念ながら勝利することはできなかった。暑い中、皆さんご苦勞様でした。
 参加者は、菅原幸福(監督)、熊谷裕美子、菅原邦典、佐藤学・佐藤由幸、熊谷信人・熊谷利津子・板垣伸吾、藤原誠、畠山栄喜、柳原紘樹、菅原茂

下大瀬川美土里の会が水生生物観察会を実施

下大瀬川美土里の会(熊谷俊彦代表)は8月3日、九区の子どもを対象に、水生生物観察会を実施した。この日の参加は二家族(子ども2人とそのお父さん、お母さん)と少なかったが、近くの農業用水でつかまえたドジョウ、ザリガニ、カワナなどをプラスチック容器に水を張って入れ、農業用水にはこのような生物がいること、カワナは蛍の幼虫の餌となっていてそれにより蛍が光ることなどを勉強した。
 農業用水にはかつて、ウナギやタナゴなどいろいろな生き物がいたが、農薬の関係でめっきり少なくなった。自然豊かな農村環境を創り、守り、そして次世代につなげなければならないと、大人も大いに学んだ観察会であった。

訃報

向家の菅原キワ子さんは、7月18日に90歳で亡くなられました。菅原さんは、ご主人の勝治さん(石鳥谷町大興寺出身)を昭和54年に48歳の若さで亡くされて以来、女手一人で家業に勤しんだ方でした。菅原さんで思い出すのは大瀬川の「どどり」として多くの家庭がお世話になったことでした。「どどり」とは、大瀬川の方言で「どうどり(頭取り)」のことで、死後に近所の方々が大きな数珠で輪を作り、その輪の真ん中に「どどり」が入ってお念仏を主導して唱える方がいい、そのまわりを近親者や近所の人々が囲み、亡くなった方にお念仏を唱えたものでした。
 この「どどり」もコロナ禍で行われなくなりましたが、向かいかまどのマツノさん亡くなったときにキワ子さんから教わった菅原茂さんが「どどり」を行い、今回も火葬が終わったあとに行いました。7区の「どどり」は以前は、菅原七重さん(大工戸家)、その前は菅原キエさん(久保家)でした。昭和年代に大瀬川婦人学級の運営委員などもなされ、多くの方々に親しまれました菅原さんに謹んでご冥福を申し上げます。